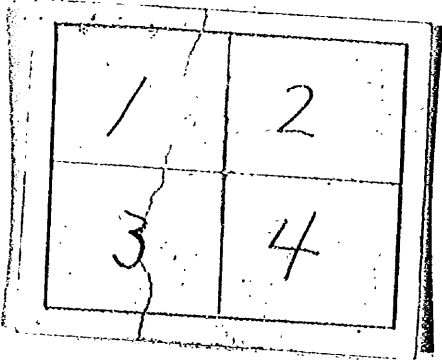


# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1527  
1528  
1529  
1530

第一方面軍直轄  
第一三九師團

部隊名 工兵第一三九聯隊

通稱號 不屈三七三〇八部隊

郵便所名

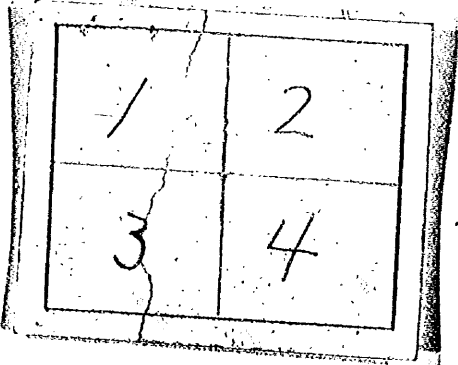
全般概要		轉入	轉出	人員編制		隊別		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より		入ソノ人員		滿洲残留					
原駐地教化 二〇、八月編成 八、一四 陸地養家のため國南出發 八、一九 國南教化復舊 八、二四 教化にて武装解除 九、二 武装解除後教化營地に二〇回居り馬車部隊と合流し將校全部と別れ准士官を長とし沙河沿吹谷地に退却 九、二〇 作業大隊編成工兵聯隊を主力として第二四八作業大隊を編成す 第二四八大隊將校は別に將校大隊を編成せるも移送前編成營より全く部隊の跡一六名配属となり大隊本部各中隊の指揮をとる 輸送途中で五名死亡す 一〇、上旬 沙河沿吹谷ハルビン滿洲里一タターイルツグータイモットハ滿洲里タイモント吹谷主力は沙河沿吹谷脱走者三〇名に及ぶ		十九年以降	十九年以降	964		聯隊本部		隊長名 (内は先代を示す) 少佐 横澤 鐵郎		關人 戰時 平時		駐屯地 戰時 平時		戰鬥間の状況及損耗 經三八二ハ、敵激攻を受け、沙河沿吹谷に退却し、(傷)七名あり 龍潭内一三五名		作業大隊より 入ソノ迄の變動 經三八二ハ、沙河沿吹谷に退却し、(傷)七名あり 龍潭内一三五名		入ソノ人員 隊別計		滿洲残留	
第四隊 第三中隊 第二中隊 第一中隊																					







# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1532  
1533  
1534

第一方面軍直轄  
第一三九師團

部隊名 第一三九師團通信隊

通稱 號不屈二七三一六部隊

郵便所名

<p>全般概要</p> <p>二〇、七、三〇 教化にて編成完了す</p> <p>八、九 鏡泊湖へ轉送</p> <p>八、一八 教化に後送</p> <p>八、二二 教化收容所に收容</p> <p>九、初 作業第二四二大隊編成</p> <p>一〇、八 滿洲里經由タイヒョフ、地蔵 收容所へ轉送、下士官、兵 と三區分される 於校に於て後入ノ下士官兵 の行動不明、少尉及千光 見習士官入隊す 村松中尉老弱として別に收 容される</p>	<p>轉入</p> <p>十九年以降</p>	<p>轉出</p> <p>十九年以降</p>	<p>編制人員</p> <p>239</p>	<p>隊別</p>	<p>隊長名</p> <p>( )内は先代を不す</p> <p>中尉 尾上 久 少尉 後藤 武雄 同 白石 同 佐野</p>	<p>開入 戦時</p>	<p>駐屯地</p> <p>平時 戦時</p>	<p>戰鬥間の狀況及損耗</p>	<p>終戦後の人員變動</p>	<p>作業大隊より 入「ソ」迄の變動</p>	<p>入「ソ」人員 隊別計</p>	<p>滿洲残留</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	-----------	----------------------------------------------------------------------------	------------------	-----------------------------	------------------	-----------------	----------------------------	-----------------------	-------------

		編制人員	
		隊別	
		隊長名 ( )内は先代を示す 中尉 尾上 久 少尉 後藤 武雄 同 白石 同 佐野	
		關人 戰時 人員	
		駐屯地 平時 戰時	
		戰鬥間の狀況及損耗	
		終戦後の人員變動	
		作業大隊より 入「ソ」迄の變動	
		入「ソ」人員 隊別 計	
		滿洲残留	
		收容所名	
		所入 死亡	
		滿洲より 領 計	
		歸還人員	
		狀況不明 者 數	

隊名第一三九師團通信隊

通稱號不屈二七三二六部隊

郵便所名



改定にて編成完了す

八、九  
後藤部(幕僚)

八、一八  
改定に後退

八、二二  
改定改定所へ改定

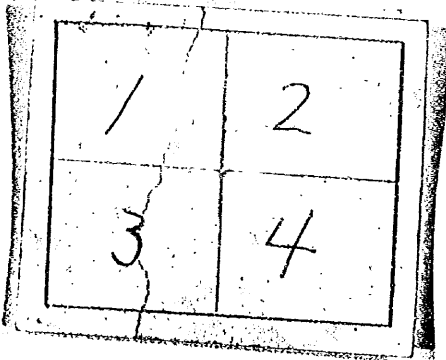
九、初  
作業第二四二大隊編成

一〇、八  
前田里親由タイキョト地蔵  
改定所へ待校、下士官、兵  
と三區分される  
將校は其の後入ソ下士官兵  
の行動不明先吹少尉及千光  
只留士官入隊す  
村松中尉を補として別に改  
定される

同 少尉  
同 佐野  
後藤  
白石  
武差

同 少 氏  
佐 白 後  
野 石 藤  
武  
雄

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



部隊 輸重兵第一三九聯隊

通稱 號不屈三七三〇九部隊

郵便所名

別隊	隊長名	開入	駐屯地	戦間状況及損耗	終戦後の人員變動	入ソノ人員	滿洲残留	收容所	歸還人員	状況不明者數
聯隊本部	少佐 佐久間鐵太郎							ネトブルスカヤ タイセツト マルタ		
第一中隊	方子 岩田 白石 三 佐藤 隆一	180		戦間状況及損耗 終戦後の人員變動						
第二中隊										
第三中隊	昭和二十年八月十二日 八月十四日 自動車十五輛で教化 鑓泊期間の砲兵一ヶ中隊の兵力輸送を實施八月十六日 八月十 八日教化 師司令部迄の被服輸送 八月二十三日教化で被服(百二十二名)									
第四中隊	中隊長 方子 隆一 方子 隆一 方子 隆一 方子 隆一 方子 隆一	122								
<p>作業大隊より入ソノ迄の變動</p> <p>作業第二四三大隊に編入 タイセツト地区へ</p> <p>作業第二四九大隊に編入 タイセツト地区へ</p> <p>作業第二四三大隊に編入 タイセツト地区へ</p> <p>作業第二四九大隊に編入 タイセツト地区へ</p>						入ソノ人員	滿洲残留	收容所名	歸還人員	状況不明者數

二〇六二

八、一八  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て

九、一  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て

九、二  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て

一〇、一  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て

一〇、二  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て  
隊本部に於て(第一〇  
〇〇)隊本部に於て

隊中五第	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	隊本部
	<p>中隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て 隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て</p>	<p>昭和二十年八月十二日 八月十四日自衛直十五輛で教化 鏡泊湖間の砲兵一中隊の兵力輸送を實施八月十六日 八月十 八日教化 砲兵司令部の茶服輸送(百二十二名)</p>			<p>隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て 隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て</p>
	122			180	

隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て

隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て  
隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て

隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て

隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て

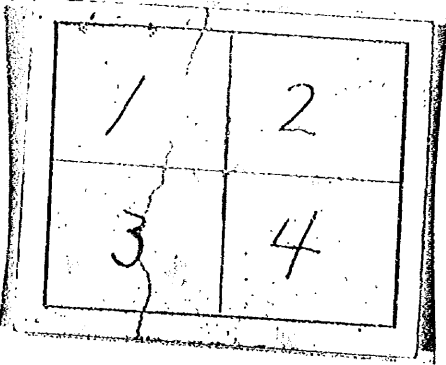
隊本部に於て(第一〇〇〇)隊本部に於て







# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1542  
1543

第一方面軍軍直  
第二三九師團

部隊名 第二三九師團兵器勤務隊

通稱 號不届三七三一〇部隊

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名 ( )内は先代を不示す 大尉 加藤善之助 中尉 會賀	開入 戰時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別計	滿洲殘留
<p>七、二九 教化編成完結自動車班及持 荷者教化に於て出動準備の まゝ行動なし 教化に於て武裝解除將校の 別行動准士官以下飛行場整 合に收容</p> <p>九、一〇 沙河沿に移動</p> <p>一〇、一 各大隊に編入ソ部に入る 師團通信兵器勤務隊は第二 三九大隊編成 一部は作業 二四二大隊に編入 勤務隊長は在遊の教化地 病人大隊に編入さる、教化 附近の運送物機械材料木材 糧秣被服の食軍被込みに従 事下士官四名兵六名病人大 隊に編入し將校大隊と同一 作業に従事す 其の他將校八二名シベリヤ に移動したるもの如し 隊長を除く勤務隊一〇名に 一〇月九日ソ軍の許可を得 て地方居留民に編入一隊在 留邦人として引揚ぐ</p> <p>一〇、五 愛河出發線沿河經由入「ソ」 一「タイセット」第二收容所へ 收容せり</p>			112									

員人制編		隊名	
別		第一三九師團兵器勤務隊	
隊長名 ( )内は先代を示す 大尉 加藤善之助 中尉 會賀		通稱 號 不 屈 三 七 三 一 〇 部 隊	
開人	駐屯地	郵便所名	
戦時	戦時		
戦時	戦時		
戦闘間の状況及損耗			
終戦後の人員變動			
作業大隊より入ッ込の變動			
入ッ込人員	隊別計	滿洲殘留	
收 容 所		收 容 所 名	
タイセツト 第二收容所			
所 人		死 亡	
滿洲より		歸還人員	
領 計		狀況不明者數	

各部隊は、於て出陣準備の  
完了を以て、各部隊長より  
報告せられたるに、各部隊  
は、各々所屬の駐屯地を以て  
今迄如く

六、一〇  
各部隊の移動

一〇、一 各大隊に編入し、編入  
三六六隊編成 一部は作業  
二四二六隊に編入  
各部隊長は在籍の教化地区  
附近の建造物被破材木材  
運搬隊の食糧運送みに従  
事し、士官四名兵六名病人大  
隊に編入し、將校大隊と同  
作業に従事す  
其の他將校八二名シベリヤ  
に移動したるもの、如し  
隊長を除く勤務隊一〇名に  
一〇月九日軍の許可を得  
て、地方居留民に編入し、在  
留野人として引接ぐ  
一〇、五 一  
愛河山嶺線分河線由入  
一、タイセツト第二收容所へ  
移す

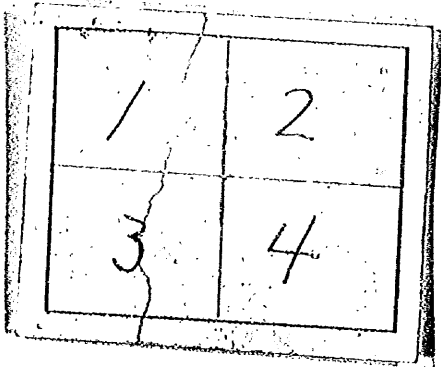
タイセツト  
第二收容所

タイセツト  
第二收容所

大塚  
幸彦  
著  
大塚幸彦の  
研究

タイセツト  
第二改定版

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1542

所屬 第一方面軍直轄 第一三九師團	全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員 1000	隊名 第一三九師團衛生隊	隊長名 ( )内は先代を示す	開入 戦時 平時	駐屯地 戦時 平時	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソノ返の變動	郵便所名 入ソノ人員 隊別計	満洲残留
-------------------------	------	-------------	-------------	--------------	-----------------	-------------------	----------------	-----------------	-----------	----------	-------------------	----------------------	------

部隊名第一三九師團衛生隊

通稱號不屈三七三一一部隊

郵便所名

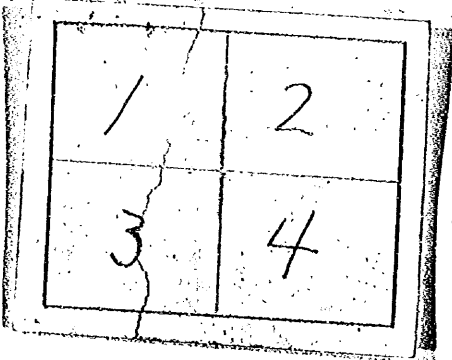
降		人員制編
別		隊
隊長名		( )内は先代を不す
戦	開入	人員
平	駐	屯地
時	電	地
戦	時	
戦闘間の状況及損耗		
終戦後の人員變動		
作業大隊より入ソ迄の變動		
除別	入ソ	人員
計		
満洲残留		
収容所名	收	容
人員	所	所
死亡		
より満洲	歸還人員	
より領		
計		
者	状況不明	
数		



1000



# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1931

第一方面軍直轄  
第一三九師團

部隊名 第一三九師團第一野戰病院

通稱 號不 屈三 七三二二 部隊

郵便所名

全般概要		編制人員		隊別		隊長名 ( )内は先代を示す		開戦時		駐屯地		戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より 入ソ返の變動		入ソ人員 隊別計		滿洲殘留		收	
		300																					

部隊名第二三九師團第一野戰病院

通稱號不屈三七三二二部隊

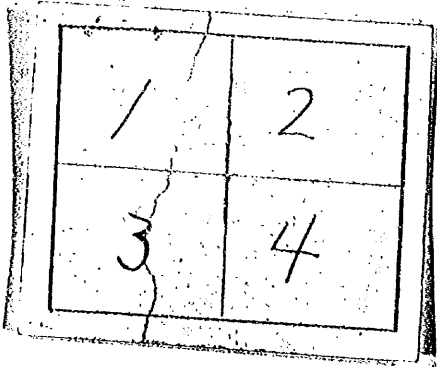
郵便所名

降		員人訓編
別		隊
隊長名		( )内は先代を示す
時員	開人	戦
平	駐屯地	時
戦時		
戦闘間の状況及損耗		
終戦後の人員變動		
入「ソ」迄の變動		作業大隊より
隊別	入「ソ」人員	
計		
満洲残留		
收容所名	收容所	
員所人	死亡	
より満洲	よりソ領	歸還人員
より	計	
者	数	状況不明





# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



昭和二十一年  
三月  
三十一日

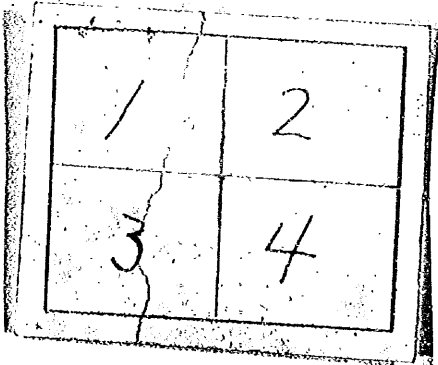
全般概要		所屬	
轉入		第一方面軍軍直	
轉出		第一三九師團	
人員編制		部隊名	
350		第一三九師團第四野戰病院	
別除		通稱號	
( ) 隊長名		不屈二七三一二部隊	
開人		郵便所名	
戦時		駐屯地	
平時		戰鬥間の状況及損耗	
戦時		終戦後の人員變動	
戦時		作業大隊より	
戦時		入ソノ變動	
戦時		入ソノ人員	
戦時		隊別計	
戦時		滿洲殘留	
戦時		收	







# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

11113  
15113

第一方面軍軍直  
第一三九師團

部隊名 第一三九師團病馬廠

通稱號 不届三七三二四部隊

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員入制編	隊別	隊長名	開入 時員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ迄の變動	入ソ人員 隊別計	滿洲殘留
<p>八、一 編成完結</p> <p>八、五 教化營近北方四野砲隊に布 隊待機</p> <p>八、一六 教化飛行場に於て武装解除</p> <p>八、二一 各種工事勤務者駐屯地附近 の者武装解除後原隊に復隊</p> <p>八、二二 教化の暴徒襲撃のため出隊 してより部隊行動不明一ヶ 小隊は南陽へ二四日出発三 〇日吉林にて分隊す小隊の 一部にて九月三〇日鞍山迄 昭和製鋼所解体作業に従事 終了と同時にソ軍に進行其 の他の者は各隊毎に作業大 隊編成教化飛行場に集結後 留者歸郷者に二分。作業隊 編成せんも僅かに二〇名の み佐藤少尉は残存せる。一週 に亘り解散を命じ内地より 渡航せる者は軍需の行動を 命す中島中尉以下一〇名は 牡丹江以北開拓區及妻子の 安全を氣遣ひ東安方面送歸 りたるものあり</p>		<p>十九年以降</p> <p>十九年以降</p>		<p>50</p> <p>119</p> <p>50</p> <p>20</p>	<p>班</p> <p>送</p> <p>輪</p> <p>班</p> <p>容</p> <p>收</p> <p>部</p> <p>本</p>	<p>隊長名</p> <p>( )内は先代を示す</p> <p>獸醫中尉 齋藤幸治</p> <p>庶務係 中島</p> <p>獸醫中尉 佐藤</p>	<p>開入</p> <p>時員</p> <p>平時</p> <p>時</p> <p>戰時</p> <p>時</p>	<p>駐屯地</p>					

50	119	50	20	員人制編					
班	送	輸	班	容	收	部	本	別	隊
		軍曹 高橋		隊醫少尉 佐藤			隊醫中尉 齊藤幸治 隊務係 隊醫中尉 中島	隊長名 ( )内は先代を示す	
								戦時	開人
								平時	駐屯地
								戦時	
								戦闘間の状況及損耗	
								終戦後の人員變動	
								作業大隊より 入ソ返の變動	
								隊別	入ソ人員
								計	
									満洲 残留
								収容所名	收容所
								タイセツト	
								長所人	死亡
								より満洲 より	歸還人員
								計	
								者	状況不明
								数	

部隊名 第一三九師團病馬廠

通稱號 不届三七三二四部隊

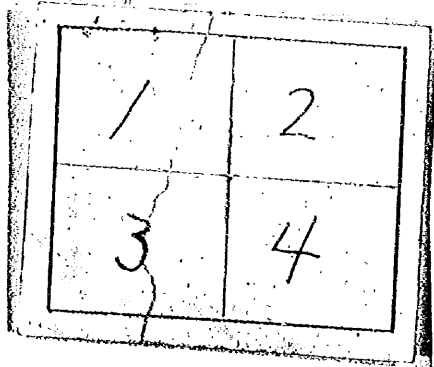
郵便所名







# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

11003  
11003

全般概要		第一方面軍軍直 第一三九師團		部隊名 第一三九師團防疫給水部		通稱號 不屈三七三二五部隊		郵便所名	
轉入 十九年以降		轉出 十九年以降		編制人員		隊長名 ( )内は先代を示す		開人 戦時	
200				別隊		駐屯地		戦闘間の状況及損耗	
						戦時		終戦後の人員變動	
						戦時		作業大隊より 入「ソ」迄の變動	
						戦時		入「ソ」人員	
						戦時		満洲残留	
						戦時		收	

部隊名 第一三九師團防疫給水部

通稱號 不届三七三二五部隊

郵便所名





1564

1111